

## アクセシビリティガイドの翻訳チェック作業について

2020年の東京オリンピック・パラリンピックに合わせて交通、建築、まちづくりの整備が適切に進められることは、多くの市民の願いでしょう。私ども日本福祉のまちづくり学会は、だれもが安全で安心して暮らせるまちづくりを目指しておりますが、この度、公益社団法人日本障がい者スポーツ協会 日本パラリンピック委員会からの依頼による「アクセシビリティガイド（IPCガイド）」の翻訳チェックを通して東京オリンピック・パラリンピックに協力することは大変意義があると考えました。東京オリンピック・パラリンピックの開催を契機として、高齢者、障がい者を含めて誰もが安心して生活できる環境の整備とその質を向上させるに当たって、IPCガイドが重要な指針になるのは間違いありません。さらに2020年の大会終了以降も、引き続きその理念が受け継がれるよう期待するものです。

この度のIPCガイド翻訳チェックを引き受けて感じたのは、以下の点です。

- ①プロの翻訳者だけでは専門的分野の翻訳や解釈が十分でない部分があり、専門家の協力が必要であった
- ②日本と海外とのバリアフリーの進み具合が異なり、国際標準と日本の標準の違いが明確になった
- ③今後、進歩や発展が見込まれる部分に関する現行ガイドの記述をどの様に扱うかの問題（ICTやIoT等の情報分野がこれに相当）は未解決

現在、2020年東京オリンピック・パラリンピックのガイドラインの作成が進められていますが、本翻訳チェックが上記のような点の議論を含めてその作業に資することができれば幸いです。最後にこの度の翻訳チェック作業担当者を以下に記します。

### 《担当者》

秋山哲男、稲垣具志、江守央、川内美彦、古瀬敏、澤田大輔、高橋儀平、  
竹島恵子、別府知哉、松田雄二

2016年3月7日

一般社団法人日本福祉のまちづくり学会会長 秋山哲男

アクセシビリティガイド英文和訳翻訳チェック作業担当者

(五十音順)

- 秋山 哲男(中央大学研究開発機構 教授)  
稲垣 具志(日本大学理工学部交通システム工学科 助教)  
江守 守(日本大学理工学部交通システム工学科 助教)  
川内 美彦(東洋大学ライフデザイン学部人間環境デザイン学科 教授)  
古瀬 敏(静岡文化芸術大学 名誉教授)  
澤田 大輔(公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団バリアフリー推進部 担当課長)  
高橋 儀平(東洋大学ライフデザイン学部人間環境デザイン学科 教授)  
竹島 恵子(公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団バリアフリー推進部 担当課長)  
別府 知哉(八千代エンジニアリング株式会社総合事業本部社会計画部技術第二課 課長)  
松田 雄二(東京大学大学院 工学系研究科建築学専攻 准教授)

チェック担当者

一般社団法人日本福祉のまちづくり学会  
(Japanese Association for an Inclusive Society)

TEL:03-5937-0153

FAX:03-3368-2822

<http://www.fukumachi.net/>